




発行元：岡山県児童養護施設等協議会「職員関連事業部会」

第7号 平成29年3月31日発行

会長あいさつ



会長：松田浩一郎

昨年の12月に、2010年から全国の児童養護施設に、匿名・仮名で寄付が贈られ続けているタイガーマスク運動の発端となった、自称「伊達直人」氏が正体を明かした。河村正剛氏その人であり、自称「普通の人」であった。河村氏は、素顔をさらすことにより、「子ども達に支援をしていたのがヒーローではなく、普通の人であると知って欲しかった。」と。また、下火になった運動の盛り上げ、さらには、行政をも巻き込んで、入所児童のみならず、退所後の支援、強いては300万人とも言われる貧困家庭の子ども達への支援をも考えているとのこと。「普通の人」では、出来ないことである。テレビ番組で、貧困家庭への支援について、施設退所者がコメントしていたが、物品による寄付、奨学金も有り難いがそれだけではなく、「『愛情の投資』が求められる。」と。また、同番組で子ども食堂の主催者が地域の方による「愛情支援」が支えであると。キーワードは「愛情」である。心の支えである。

子ども達は、なぜ生まれてきたのか。「子ども達は抱きしめられるため、周りの人を笑顔にするために生まれてきた。」と河村氏は語る。その子ども達を、抱きしめ、笑顔にすることこそが、私たちの果たすべき責務である。

新任施設長紹介



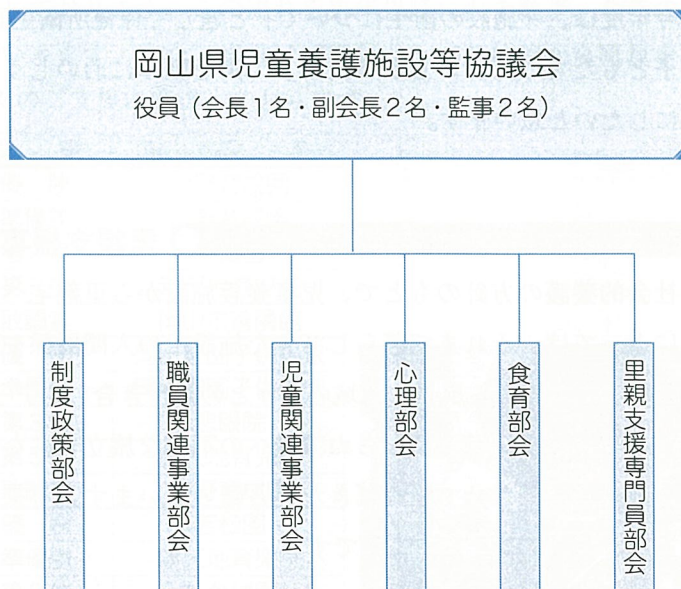
津島児童学院
学院長 原田 雅寿

法人内の異動により、平成28年4月から学院長を務めております。以前、6年間（平成14年度～19年度）津学に勤務しておりましたが、昔の感覚を取り戻す間もなく、あっという間に一年が過ぎてしまいました。

皆様にお知らせがあります。児童福祉法の一部改正により、これまでの「情緒障害児短期治療施設」から「児童心理治療施設」へと、施設種別の名称が変更になります（平成29年4月）。「情短」という略称で親しんでもらっていましたが、さて今後はどうなるのでしょうか。寂しくもあり、楽しみでもあり…。

隣接する運動公園の木々とともに、こどもたちの成長をゆったりと見守っていきたいと思います。

平成28年度 岡山県児童養護施設等協議会 組織図



専門部会 活動報告

● 制度政策部会 ●

現在当協議会は、岡山県社会福祉法人経営者協議会の協力を得ながら県議会議員を始め岡山県、国へと様々な支援を要望しているところである。当部会では、要保護児童における身元保証の充実についての要望を行った。

退所して巣立っていく子ども達にとって、社会は未知の世界である。そんな子ども達にとっては、就職時や賃貸契約時の身元保証人は命綱である。しかし、現状の保証制度では十分とは言い切れない。また、多くの施設長がリスクを背負っての保証制度である。新たに自立支援金貸付事業が始まったが、これも、貸付金返済免除事由は、5年間の継続就業、業務上の死亡、心身の故障による就労断念時である。子ども達にとって、容易ではない。引き続き、さらなる支援を強く要望していくものである。

● 心理部会 ●

岡養協の心理部会としての活動が8年目を迎えた今年度は、協議会の15施設中、過去最多の12施設に心理職が配置されました。

施設の心理職の多くが一人職場で、新たに配置された施設では手探り状態で始めることが多いので、今年度は新任の心理職からの質問をもとに、職務内容や子どもとの面接、直接支援職員との連携のあり方などについて話し合ったり、また子どもとの面接での困り感をもとに事例検討を行ったりしています。

また、今年度6月に開催された中国地区児童養護施設研究協議会の分科会では、「見方が変わる～子どもの行動の成り立ちをひもとく～」をテーマに、部会員と直接支援職員や児相職員らと準備・協議を進めましたが、その過程自体も「うまみ」が味わえるよい機会となりました。

● 食育部会 ●

「ただいま。今日のおやつ何?」「夕食何?」と子どもの元気な声が園内に聞こえてきます。そんな声が聞こえてくると、私は嬉しくなります。たぶん食育部会の皆さんも同じ思いではないでしょうか。

昨年度は子どもたちが卒園後困らないように、そして直接処遇の職員の皆さんのお役に立てれば、との思いで「料理の基本集」「レシピ本」を作成しました。

今年度は、「施設の衛生について」と題して保健所衛生課の方に来ていただき勉強の機会を設けました。

子どもたちの「おいしかった!」の声を励みにおいしくて安心安全な食事を提供する為に自分たちを高められる会にしたいと思います。

● 里親支援専門員部会 ●

社会的養護の方針のもとで、児童養護施設から里親宅へ生活の場を変える子どもたちが増えてきています。子どもによっては、それまで暮らしてきた施設での人間関係や心の結びつきが、育ちの場での原風景となっています。施設の窓から見える風景や地域の方々のお付き合いも、子どもたちにとっては大事な生い立ちの一コマです。

里親委託の出発が、見知らぬ環境への不安な旅立ちにならないように、子どもたちの故郷としての施設が、じっくりとお手伝いさせていただきたいと願っています。将来、子ども自身が「自分はみんなに大切にされたな」と振り返ることができたら何よりです。

児童関連事業部会

中高生対象事業 IN 建部

8月2日、3日にたけへの森公園オートキャンプ場で、1泊2日の中高生対象調理実習を実施し、児童30名、職員17名が参加して、調理実習を中心に他にも内容盛沢山の2日間となりました。

テント設営は手慣れた様子で年々早くなっています。夕食は恒例になりつつあるカレー、4つの班に分かれて食材争奪レクリエーションを行い、それぞれが獲得した材料を使って4種類のオリジナルカレーを作りました。2日目は赤い羽根共同募金の助成金を頂き、災害など非常時での食について考える体験を行いました。竹を削って箸・お皿・コップを作り、笹を煮てお茶を沸かし、竹でご飯を炊いて非常食と一緒に食べました。

今後は調理だけでなく、様々な体験ができる内容を企画・運営していきたいと思っております。



第56回岡山県児童福祉施設卓球大会

平成28年11月19日、岡山県立成徳学校体育館にて、「第56回岡山県児童福祉施設卓球大会」を開催しました。小学3年生から高校3年生の53名の児童が参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。今年度は11月開催となり、天候も生憎の雨ということでいつもよりも寒い中での大会となりましたが、子ども達は元気よく、熱い試合を繰り広げておりました。

年々参加施設の増加、子ども達の卓球技術の向上を感じております。この流れを来年以降に引き継ぎ、今年の反省を生かし、子ども達が楽しめる大会になるよう努めていきます。また、当日は審判員として各施設から職員を派遣していただきスムーズな進行が出来ました。多くの方々のご支援に感謝しております。

	成績	施設名		成績	施設名
小学生男子	優勝	津島児童学院	小学生女子	優勝	南野育成園
	準優勝	津島児童学院		準優勝	南野育成園
	第3位	立正青葉学園		第3位	若松園
	第3位	若松園		第3位	新天地育児院
	敢闘賞	南野育成園	敢闘賞	岡山市善隣館	
中学生男子	優勝	新天地育児院	中学生女子	優勝	岡山聖園子供の家
	準優勝	悲眼院		準優勝	岡山聖園子供の家
	第3位	悲眼院		第3位	悲眼院
	第3位	玉島学園		第3位	新天地育児院
	敢闘賞	玉島学園	敢闘賞	南野育成園	
高校生男子	優勝	南野育成園	高校生女子	優勝	若松園
	準優勝	南野育成園		準優勝	新天地育児院
	第3位	玉島学園		第3位	わかば園
	敢闘賞	悲眼院			



児童交流事業

平成28年10月1日（土）、今年も岡山ドームに岡山県下12児童養護施設の幼稚園、小学生の子どもたちが172名集まり第11回の児童交流事業「運動会」が行われました。

昨年までは小学生が対象の事業でしたが、幼稚園児にも参加させてあげたいとの思いで今回加わることになりました。

緊張した開会式からでしたが、準備体操は「ドラえもののラジオ体操」で心も体も緊張もほぐれた気持ちでのスタートとなりました。

まずは、「施設対抗リレーの予選」から始まり、「玉入れ」「ムカデ競争」「ドッジボール」へと進み、今年の新メニューとして、昼食後には「みんなで踊ろう、岡山うらじゃ踊り」そして幼稚園児の「かけっこ」「長縄跳び」「綱引き」へと続き、競技内容もいよいよ白熱してきて、「ドッジボール決勝」「リレー決勝」では、子どもたちの歓声も大盛り上がりとなりました。心配していたケガもなく無事一日を過ごすことが出来ました。

惜しくも優勝を逃した施設の子どもたちは「負けて悔しかった。」「来年は優勝するよう頑張る。」また、優勝をした施設の子どもたちは「勝って嬉しかった」「楽しかった」との感想が寄せられました。

児童部会の職員としては、子どもたちが力いっぱい運動をして楽しい一日を過ごせたこと、子どもたちの笑顔を見ることが出来たのがとても嬉しいことでした。



自立に向けた企業見学会

今年度初めての事業として、中高生を対象に、自立に向けた企業見学会を1月21日に行った。

見学先は「岡山和気ヤクルト工場」「旭川敬老園・旭川荘児童院・愛育寮」「TSCテレビせとうち・山陽新聞社」の3カ所。当日は中学生8名、高校生17名、引率職員13名の計38名（10施設）の参加があった。

旭川荘では職場の見学だけでなくそれぞれの施設で働かれている職員の方から、仕事をしていく上での苦労や生きがい、社会人としての心構えなど、質疑応答を交え直接お話を聞くことができた。

テレビせとうち・山陽新聞社では、スタジオ見学や実際に紙面の構成をしている現場などを見せて頂くことができた。

初めて見聞きする事も多く、新たな発見があり目標を見つけた子もいたようだ。

今回の事業が、子ども達の将来を考える上での参考になればと思う。



職員関連事業部会

平成28年度岡山県児童養護施設等新任職員研修会

「平成28年度岡山県児童養護施設等新任職員研修会」が平成28年6月24日（金）きらめきプラザで開催され、岡山県児童養護施設等協議会に加盟する13施設34名の新任職員が参加しました。

午前は、児童養護施設 南野育成園園長 樋口俊司氏を講師に迎え、「児童の行動化に対する理解とその対応について」と題しての講義をしていただきました。

午後からは、児童養護施設 若松園副園長 津嶋悟氏を講師に迎え、「新任職員のみなさんに知っておいて欲しいこと～被措置児童等虐待をふせぐために～」講義をいただきました。また、グループに分かれての施設や自己紹介をしました。お互い仕事についての悩みを話し合い、共有することで、自分だけではないと安心したり、頑張ろうと前向きに考えることができたりしたという意見が聞かれました。

また、今回は平成28年11月11日（金）に「岡山県児童養護施設等新任職員フォローアップ研修会」をきらめきプラザで行いました。

倉敷児童相談所 子ども養護課長 片山恵子氏を講師に迎え、「児童福祉施設と児童相談所の連携について」と題しての講義をしていただきました。

研修会終了後の懇親会では、食事をしながら互いの近況や、仕事についての話をし、新任職員同士の仲が深まったようでした。



宮崎・大分 県外施設視察研修

協議会では今回で2度目となる、宮崎・大分の両県へ有志による県外施設視察研修を平成28年10月25日～27日に実施しました。これは、石井十次の顕彰活動に著名で本会顧問でもある社会福祉法人南野育成園 叶原土筆理事長の発案で、宮崎は石井十次ゆかりの石井記念友愛社、児童養護施設をはじめとして、保育、その他の地域福祉ニーズに対応した事業を展開され、「石井十次の理念を守り、石井十次と共に生きた人々の描いた、夢・ロマンを追い求めます」（ホームページより）と謳われています、石井記念友愛園を。また、大分では保育所、児童館、児童家庭支援センターなど六つの福祉施設を運営され、地域に開かれた実践と、早くからの小舎での児童処遇がお手本と期待される「別府光の園」（昨年第25回石井十次賞受賞）を視察させていただきました。

石井記念友愛園では、新築間もなく木の香りが爽やかな研修館で、児島草次郎理事長より丁寧な説明を伺った後、岡山から移築した歴史的な建物や、植

林により豊富な木材を惜しみなく使った、寮舎などを見学させていただきました。敷地のいたるところに色とりどりの花が植えてあり、豊かな緑とともに、心が癒される環境でした。

一方、別府光の園は町中にあり、様々な施設機能が肩を寄せ合った感があるものの、地域の子どもたちを様々に受け容れ、地域に開かれた施設というに相応しい在り方でした。園長先生の人柄のにじむような、お話を聞かせていただきました。



光の園 小規模グループ（ホーム外観）



光の園 子ども美術館



石井記念友愛園



光の園研修風景



研修参加メンバー

職員関連事業部会

第38回中国地区児童養護施設職員野球大会

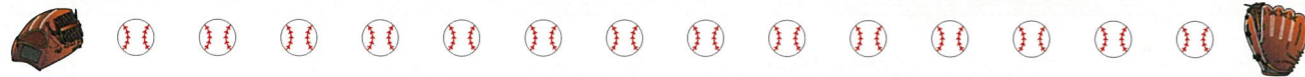
平成28年10月19日、20日の両日に渡り、真庭市久世やまびこスタジアム・宮芝球場にて第38回中国地区児童養護施設職員野球大会を開催いたしました。

岡山県チームは、A・Bの2チームに分かれ、各県チームを併せ全6チーム総勢75名のご参加をいただきました。そして、松田会長の始球식을皮切りに、各チーム2会場に分かれて熱戦が繰り広げられました。予選の結果、まさかの岡山県チーム同士の決勝戦となり、3対3のスコアで引き分けのため両チーム優勝となりました。岡山対決とはいえ、お互いに“負ける訳にはいかない!”という気持ちを前面に出しての白熱した好ゲームになりました。スポーツを通して、他施設の職員と交流を深めお互いに関係を築くことで、職員各々が日々の子どもたちへの関わりや支援において、悩みや不安を共感し、

それを解決するための新たな気づきやヒントを得られる有意義な機会となりました。

末筆ではありますが、今回の大会開催において、大会委員長である松田会長をはじめ各施設長及び運営役員の皆さまには多大なご協力・ご尽力をいただきましたこと、改めまして感謝申し上げます。

岡山県チーム優勝おめでとう



第53回

中国地区児童養護施設研究協議会 in Okayama 開催!

平成28年6月1日(水)～6月3日(金)、岡山コンベンションセンターにおいて、「安心して共に成長できる施設を目指して ～もんげー元気で!～」をテーマに開催されました。厚生労働省の大鶴憲司様、全国児童養護施設協議会の藤野興一会長をはじめ多くのご来賓の方々、そして中国5県からおいでくださった200名近い参加者の皆さん、ありがとうございました。

今大会のプログラムは、岡養の施設長さんと職員さんが力を合わせて企画をしました。大会の係分担や運営面では、平成26年9月に岡山で開催された「西日本セミナー」の経験を生かすことができましたが、分科会の中身をどのように仕立てて、どう進めていくかが一番の難問だったようです。この点においては岡養としての経験値が浅く、企画を任された職員さんたちは何度も集まって頭を悩ませながら、取り組みをすすめてくださいました。

また施設長さんたちも係の仕事を快くお引受けくださり、裏方仕事でもフットワーク軽く動いてくださいました。

おかげ様で、もてなしの心が伝わるよい大会となったようです。みなさん、お疲れ様でした!!



ももっちらっちと
全国児童養護施設協議会
藤野 興一 会長



岡養協事務局清家さん いつもお世話になります

オレンジリボンキャンペーン啓発グッズご協力のお願い

岡山市オレンジリボンキャンペーン実行委員会より

オレンジリボン運動の趣旨にご賛同いただき、啓発グッズを使用することで、オレンジリボンの輪を拡げてくださることを目指し、啓発グッズを制作しています。ご協力いただいたお金は、子ども虐待防止啓発活動に使わせていただきます。



※送料をご負担いただければ、グッズを発送することも可能です。グッズをご希望の方は、実行委員会事務局（岡山市こども福祉課内086-803-1223）まで、お問い合わせください。

<p>デニムペンケース (500円)</p>  <p>収納力たっぷり！ デニム生地のペンケース。 化粧ポーチとしてもOK！</p>	<p>マルチトートバッグ (500円)</p>  <p>A4資料が縦に入るサイズ。 両サイドと中にはポケットが あり、収納バツグン！</p>	<p>デニムバッグ (500円)</p>  <p>お弁当入れやちょっとした お出かけにバツグン！</p>	<p>ビニール傘 (500円)</p>  <p>シンプルで使いやすい 60cmのビニール傘♪</p>
<p>トートバッグ (500円)</p>  <p>A4資料が すっぽり入る キャンパス地 のバッグ！</p>	<p>ポロシャツ (2,000円)</p>  <p>さらっと 着心地がいい！ 肩と後ろに オレンジリボン マーク☆ (S・M・L・XL)</p>	<p>Tシャツ (1,200円)</p>  <p>きれいなオレンジ色の 透気性Tシャツ！ (S・M・L)</p>	<p>マスキングテープ (300円)</p>  <p>カモ柄製のかわいい オリジナルマスキングテープ♪</p>
<p>缶バッジ (各100円)</p>  <p>バリエーション豊かな缶バッジ☆ バッグにつけて♪</p>	<p>マグネット (500円)</p>  <p>車に貼れるマグネット！ かわいいデザインで 啓発協力♪</p>	<p>パーカー (3,000円)</p>  <p>冬にはあったか パーカーが オススメ！ (S・M・L・XL)</p>	

編集後記

今年度は、部会の新設や新規事業の実施等の新しいニュースや職員野球岡山県チーム優勝のおめでたいニュースがお届けできたことを嬉しく思います。皆様方には、ご多忙中にも関わらず広報誌作成にご協力いただき、誠にありがとうございました。

平成29年3月31日

「広報誌 おかよう」製作スタッフ一同

計 報

本会副会長の松田茂夫氏が昨年10月27日（木）に永眠なさいました。

ここに心から哀悼の意を表するとともに謹んでお知らせ申し上げます。

